

## だれも事故を起こしませんように

久しぶりにヒヤッとしました。突っ込んでくると思ってた、私は慌ててその場から跳びはねました。横断歩道をわたろうとしていた生徒も、いつもと違う私の様子に驚いたようです。今朝のできごとでした。いつものように、私は横断歩道脇で生徒たちの安全を見届けていました。いつものようにT君がやってきました。私は彼より先に車道に出て、近づいてくる車に歩行者がいることをいち早く知らせようと思いました。北側から軽自動車がやってきました。歩行者がいることを知らせるために、私は手を上げて合図をしました。こうすると、ほとんどの車は私を発見した時点で減速します。

この車も減速するだろうと思ったのですが、何か様子が違います。結構なスピードで、ほとんど私との距離を縮めてきます。私はとっさに身の危険を感じ、渡ろうとしていた生徒を制し、私自身もその場から飛び跳ねて避難しました。

車は急停車しました。運転していた方は「歩行者がいたんだ」とそのとき初めて気付いたかのように、びっくりした表情をしていました。私の印象ですが、普段歩行者をないがしろにして運転している方ではないような感じでした。急停車したことには恐縮していた様子がフロントガラスから見て取れました。

普段は歩行者を大切に安全運転をしている方が、そのときばかりは違うことに意識がいった状態でハンドルを握っていたのかもしれない。それでも事故をおこしてはいけません。人間は誰しもふと気が抜けるときがあり、多くのドライバーはたまたま事故につながっていないだけのようになります。

私の前を通過する車のほとんどは、生徒のために止まってくれます。生徒たちもそれを当たり前だと意識しているので、「今なら渡れる！」と思うとすぐに渡り始めます。しかし、普段はそんなことがないドライバーも、たまたま考え事をし、運転しているかもしれない。最近ではスマホを見ながら歩行者を無視して突っ切るドライバーもちらほら見かけます。そう考えると、車は止まるものだと考えない方が、自分の命を守るのかもしれない。

私がそこに立ち始めて四〇〇日余り。これまでに事故は一つも起きていません。「万が一」という言葉があるように、事故は一万分の一の確率で発生します。無事故が続けば続くほど、その後に事故が発生する可能性が高くなることを忘れてはなりません。これからも、だれも事故を起こしませんようにと願うばかりです。

(九月十五日 記)